

第二セシウム吸着装置(サリー)ベントラインからの漏えいに関する対策実施状況について

<参考資料>
平成24年11月28日
東京電力株式会社

■ 11月27日までの対策実施状況

(1) ベント口から放出される放射性物質の評価

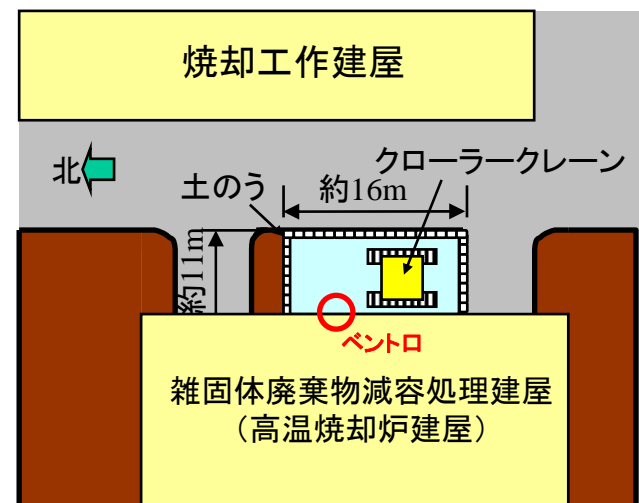
<実施概要>

漏えいが発生したベント口からの放射性物質の放出量評価のため、オートベント弁が開となる装置停止時(逆洗のための停止後、逆洗作業前)に合わせてダスト測定を実施。(11月27日)

<測定結果>

ベント口における空气中放射性物質の核種分析結果

測定項目	試料濃度 (Bq/cm ³)		
	I-131	Cs-134	Cs-137
ベント口 (検出限界値)*	検出限界値未満 ($< 9.1 \times 10^{-6}$)	検出限界値未満 ($< 1.1 \times 10^{-5}$)	検出限界値未満 ($< 1.5 \times 10^{-5}$)
[参考] B. G (検出限界値)*	検出限界値未満 ($< 8.5 \times 10^{-6}$)	検出限界値未満 ($< 1.2 \times 10^{-5}$)	検出限界値未満 ($< 1.4 \times 10^{-5}$)
[参考] 炉規則 告示濃度限度	1×10^{-3}	2×10^{-3}	3×10^{-3}



*検出限界値は検出器や試料性状により異なる。

<評価>

ベント口における空气中放射性物質の濃度は検出限界値未満であり、ベント口から放出される放射性物質は極めて少ないと考えられる。

■ 11月27日までの対策実施状況

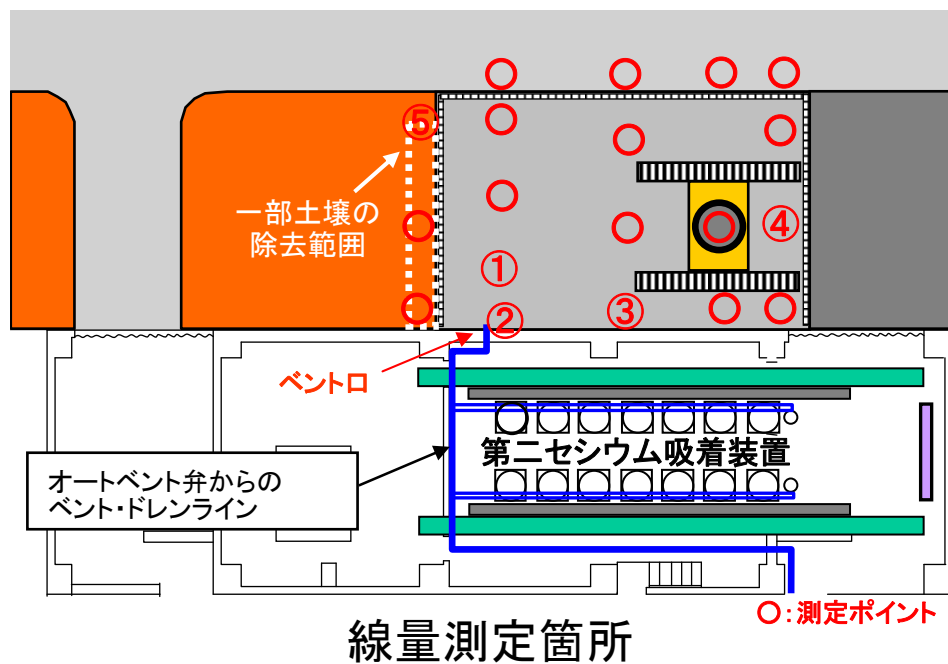
(2) 被ばく低減対策

<実施概要>

作業時の被ばく低減のため、コンクリート面と境界部(土壌)の線量測定および高線量箇所への遮へい設置

※漏えい水は、一部周囲の土壌に染みこんだ可能性があることから、装置起動(11月22日)までにコンクリート周囲の土壌の除去を実施。

<実施結果>



遮へい設置状況

■ 11月27日までの対策実施状況

(2) 被ばく低減対策

<実施結果>

遮へい設置後の線量測定結果(表)

(参考)周辺環境における線量測定結果
 γ :0.06mSv/h $\beta+\gamma$:0.07mSv/h

<評価>

遮へい設置により、作業に支障のない程度まで線量低減を図った。なお、漏えい水が染みこんだ恐れのある一部の土壌は、装置起動(11月22日)までに除去済。

表 線量測定(11月27日実施)結果

単位:mSv/h

測定箇所 (注1)	遮へい設置前				遮へい設置後			
	測定結果 (表面)		測定結果 (地面より約1m高さ)		測定結果 (表面)		測定結果 (地面より約1m高さ)	
	γ	$\gamma+\beta$	γ	$\gamma+\beta$	γ	$\gamma+\beta$	γ	$\gamma+\beta$
①	0.03	0.45	0.04	0.60	0.03	0.50	0.04	0.55
②	0.30	2.40	0.12	1.20	0.14	0.70	0.11	1.50
③	2.50	>100	0.02	15.00	0.04	0.75	0.04	0.50
④	0.20	15.00	0.04	1.30	0.02	0.90	0.02	0.10
⑤(参考)注2	0.12	20.00	0.09	0.40	0.13	0.40	0.09	0.45

注1)作業エリアであるコンクリート面における、約1mの高さの線量($\gamma+\beta$)の値が、0.1mSv/h以上の測定箇所

注2)コンクリート面からの影響と思われる、特に線量の高かった土壌箇所。コンクリート面の遮へいにより、線量が低減。

■ 今後の予定

更なる対策として、平成24年度中を目処に、①放射性物質の拡散防止(コンクリート面の塗装など)、②ベント口から屋外への漏えい防止の実施について検討する。